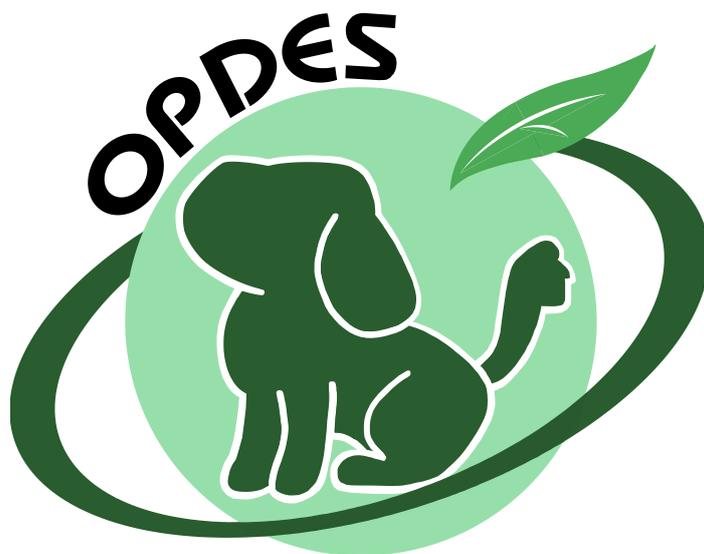


# OPDES オビディエンス試験(競技)

## 規定 & 審査表



### オビディエンスチャンピオン制度

競技会の大小に関わらず、オビディエンス1度以上のクラスに下記のポイントが与えられます  
累積30ポイントを獲得した犬にオビディエンスチャンピオンの称号が与えられます

96%～100% (評価 V 優) 10ポイント

90%～95.5% (評価 SG 特良) 7ポイント

80%～89.5% (評価 G 良) 5ポイント

2003年	1月 6日	初版作成
2005年	8月10日	改正
2009年	1月 1日	改正
2015年	9月 1日	改正
2017年	2月11日	改正
2018年	5月31日	改正

## OPDESオビディエンス試験（競技）

### 全般規定

- 血統書のあるなしに関わらず全ての犬が受験できます。ただし、未成熟な生後12か月未満の犬、妊娠中の犬、病気や怪我をしている犬は受験できません。生年月日がはっきりしない犬はその飼い主が生年月日を決定します。1年以内に狂犬病ワクチンを接種している必要があります。発情しているメス犬は受験番号が一番最後になります。
- 出場犬の所有者・指導手ともにOPDESの会員であることが必要です。
- リードはポケットに入れるか、または肩に掛けてください（左上、右下）。犬の着衣や特殊な首輪は審査員が認めれば問題ありません。いかなる場合も首輪を締め（チョーク装着）の状態にしてはいけません。スパイク首輪の装着は認められません。
- 手には何も持ってはいけません。防寒目的以外の手袋の装着も禁止されています。
- 競技は全て基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座ります）に始まり、基本姿勢で終了します。各課目の終了時に犬を誉めてもかまいません。
- 指示はどのような言葉でもかまいませんが、一動作に対して短い単一の「声符」のみ使用できます。手や体を使用した場合は、その度合いにより評価が下げられます。（前進を除く）
- 左Uターンは、一本のライン上を往復する形で左回りします。犬の動作は、頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでもかまいません。
- ハンドラーが犬のもとに戻るとき、犬の右側に直接、あるいは犬の後ろを回ってのどちらでもかまいません。正面に座っている犬を左側に座らせるとき、犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでもかまいません。
- 犬を呼び寄せる科目（持来を含む）はハンドラーの足を閉じて直立した姿勢で行ってください。
- 課目と課目の間に移動が必要な場合は犬を横につけて歩いてください。ダンベルを取りに行くときは、その地点付近まで犬をともなって移動してください。
- 審査は各課目毎に評価が下され、その評価に応じた点数が与えられます。採点の最低単位は0.5点とします。出場者が審査表の閲覧を希望した場合、審査員はそれを拒むことはできません。しかし、審査内容に意義を申し立てる事はできません。
- 同点は同順位とします（競技の場合）。
- 審査終了後は直ちに審査員が講評と評価と得点を発表します。審査員の署名がなされた訓練手帳（グリーンブック）の返還により競技終了とします。
- 競技中犬が、排便、排尿をした場合は、5点減点となります。

### 課目の中止

- ハンドラーの三度による指示で、その課目あるいは課目に必要な動作が実行できない場合、その課目は0点となります（競技は続行できます）。  
例：三度の「フセ」の指示で犬は伏せない。

## 試験（競技）失格

- 競技中いかなる場面（入退場や申告も含む）でも、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、あるいは審査員が犬の性格に重大な欠点を認めた場合、競技は中止され失格となります。得点は一切与えられません。
- コントロール不能犬、あるいは犬がハンドラーのもとを離れて三度の呼び戻しでハンドラーのもとに、あるいは競技場内に戻ってこない場合も競技は中止され失格となります。

### オビディエンス ビギナー 50点

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. リード付きで横に付いて歩く | 15点 |
| 2. 座って待つ         | 10点 |
| 3. 伏せ—呼び寄せ       | 15点 |
| 4. 伏せて待つ         | 10点 |

### オビディエンス1度（OB1） 50点

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 15点 |
| 2. 常歩中の座れ        | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せ—呼び寄せ   | 15点 |
| 4. 伏せて待つ         | 10点 |

### オビディエンス2度（OB2） 100点

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 25点 |
| 2. 常歩中の座れ        | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せ—呼び寄せ   | 15点 |
| 4. 常歩中の立止—呼び寄せ   | 15点 |
| 5. 物品持来          | 20点 |
| 6. 伏せて待つ         | 15点 |

## オビディエンス3度 (OB3) 100点

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 20点 |
| 2. 常歩中の座れ        | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せ—呼び寄せ   | 10点 |
| 4. 常歩中の立止—呼び寄せ   | 10点 |
| 5. 物品持来          | 15点 |
| 6. 障害物品持来        | 15点 |
| 7. 前進及び伏せ        | 10点 |
| 8. 伏せて待つ         | 10点 |

## オビディエンス ビギナー 50点

\* 全課目リード付き（課目3は外してもかまいません）

### 1. リード付きで横に付いて歩く 15点 要領図

リード付きの犬を伴った2チームが審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。ゼッケン番号の若いチームが出発点で基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座ります）で立ち、審査員の合図を待ちます。

審査員の合図で要領図の通りに歩行します。

指示は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時のみ使用できます。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できません。群衆は8の字で行進します。

### 2. 座って待つ 10点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢で立ちます。

審査員の合図で犬に「マテ」を指示し、リードは犬の横に静かに置きます。ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

### 3. 伏せ—呼び寄せ 15点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢で立ちます。審査員の合図で犬に「フセ」を指示し、リードは犬の横に静かに置きます。（希望すれば「フセ」を指示する前にリードを外してもかまいません）。

ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図で「コイ」を指示します。呼ばれた犬はハンドラーの正面、又は左側に座ります。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてからハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせ基本姿勢をとります。

#### 4. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～3を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所に移動します。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬に「フセ」を指示してリードは犬の横に静かに置きます。

ハンドラーは振り返ることなく、10歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。

審査員が合図をしたら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。

ハンドラーが伏せて待っている犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目2.「座って待つ」を終える前に3m以上移動した場合は、得点は0点となります。

## オビディエンス1度 50点

\* リードは最初に行う課目の前に外します。全課目終了後に装着します。

#### 1. リードなしで横に付いて歩く 15点 要領図

リード付の犬を伴った2チームが審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。ゼッケン番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢（ハンドラーと犬は進行方向に立ち、犬は真横で静かに真っ直ぐに座ります）で立ち、審査員の合図を待ちます。審査員の合図で要領図の通りに歩行します。

指示は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時のみ使用できます。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できません。群衆は8の字で行進します。

#### 2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。

10～15歩の間で歩度を変えることなく「スワレ」の指示で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

#### 3. 常歩中の伏せ一呼び寄せ 15点

この課目は出発点に戻ることなく常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。

（場合によっては出発点に戻ります。）審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。

10～15歩の間で歩度を変えることなく「フセ」の指示で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図で「コイ」を指示します。呼ばれた犬はハンドラーの正面、又は左側に座ります。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてからハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせ基本姿勢をとります。

#### 4. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～3を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所に移動します。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外します。審査員の合図で犬に「フセ」を指示してハンドラーは振り返ることなく、20歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。

審査員が合図をしたら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。ハンドラーが伏せて待っている犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目3.「常歩中の伏せー呼び寄せ」を終える前に3m以上移動した場合は、得点は0点となります。

## オビディエンス2度 100点

\* リードは最初に行う課目の前に外します。全課目終了後に装着します。

#### 1. リードなしで横に付いて歩く 25点 要領図

リード付の犬を伴った2チームが審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。ゼッケン番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢（ハンドラーと犬は進行方向に立ち、犬は真横で静かに真っ直ぐに座ります）で立ち、審査員の合図を待ちます。審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

指示は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時のみ使用できます。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できません。群衆は8の字で行進します。

#### 2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。

10～15歩の間で歩度を変えることなく「スワレ」の指示で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

#### 3. 常歩中の伏せー呼び寄せ 15点

この課目は出発点に戻ることなく常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。

（場合によっては出発点に戻ります。）審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。

10～15歩の間で歩度を変えることなく「フセ」の指示で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図で「コイ」を指示します。呼ばれた犬はハンドラーの正面、又は左側に座ります。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてからハンドラーは犬に指示を

出し、左側に座らせ基本姿勢をとります。

#### **4. 常歩中の立止—呼び寄せ 15点**

この課目は、常歩中の伏せ—呼び寄せを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で進みます。10～15歩の間で歩度を変えることなく「タッテ」の指示で犬を立止させ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

審査員の合図で「コイ」を指示します。呼ばれた犬はハンドラーの正面、又は左側に座ります。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてからハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせ基本姿勢をとります。

#### **5. 物品持来 20点**

基本姿勢からハンドラーは、審査員の合図でダンベルを最低10歩前方に投げ、ダンベルが完全に静止したら犬に「モッテコイ」を指示します。

犬は往路、復路ともに最短距離で素早くハンドラーのもとへダンベルを持ってきます。

犬はダンベルをくわえたままハンドラーの正面、又は左側に座ります。ハンドラーは一呼吸（明確な間）おいて「ダセ」を指示しダンベルを受け取ります。受け取ったダンベルは右手で持ちその腕は下に伸ばします。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせ基本姿勢をとります。

#### **6. 伏せて待つ 15点**

ペアのチームが課目1～5を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所へと移動します。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外します。審査員の合図で犬に「フセ」を指示してハンドラーは振り返ることなく、30歩進んで犬から見えないように指定された隠れ場所に入ります。

審査員が合図をしたら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。

ハンドラーが伏せて待っている犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目4、「常歩中の立止—呼び寄せ」を終える前に3m以上移動した場合は、得点は0点となります。

### **オビディエンス3度 100点**

\* リードは最初に行う課目の前に外します。全課目終了後に装着します。

## 1. リードなしで横に付いて歩く 20点 要領図

リード付の犬を伴った2チームが審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。ゼッケン番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢（ハンドラーと犬は進行方向に立ち、犬は真横で静かに真っ直ぐに座ります）で立ち、審査員の合図を待ちます。審査員の合図で要領図の通りに歩行します。

指示は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時のみ使用できます。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できません。群衆は8の字で行進します。

## 2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。

10～15歩の間で歩度を変えることなく「スワレ」の指示で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

## 3. 常歩中の伏せ一呼び寄せ 10点

この課目は出発点に戻ることなく常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。

（場合によっては出発点に戻ります。）審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。

10～15歩の間で歩度を変えることなく「フセ」の指示で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図で「コイ」を指示します。呼ばれた犬はハンドラーの正面、又は左側に座ります。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてからハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせて基本姿勢をとります。

## 4. 常歩中の立止一呼び寄せ 10点

この課目は、常歩中の伏せ一呼び寄せを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。10～15歩の間で歩度を変えることなく「タツテ」の指示で犬を立止させ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図で「コイ」を指示します。呼ばれた犬はハンドラーの正面、又は左側に座ります。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）おいてからハンドラーは一呼吸（明確な間）おいて犬に指示を出し、左側に座らせて基本姿勢をとります。

## 5. 物品持来 15点

基本姿勢からハンドラーは、審査員の合図でダンベルを最低10歩前方に投げて、ダンベルが完全に静止したら犬に「モッテコイ」を指示します。

犬は往路、復路ともに最短距離で素早くハンドラーのもとへダンベルを持ってきます。

犬はダンベルをくわえたままハンドラーの正面、又は左側に座ります。ハンドラーは一呼

吸（明確な間）において「ダセ」を指示しダンベルを受け取ります。受け取ったダンベルは右手で持ちその腕は下に伸ばします。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）においてハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせ基本姿勢をとります。

## 6. 障害物品持来 15点

障害板の最低約5歩前で基本姿勢をとり、ハンドラーは審査員の合図でダンベルを障害の向こう側に投げます。ダンベルが完全に静止したら犬に「トベ」・「モッテコイ」の連続声符を指示します。

犬は障害板に触れることなく飛び越え、ダンベルをくわえて、再び障害板を飛び越えハンドラーの正面、又は左側に座ります。ハンドラーは一呼吸（明確な間）において「ダセ」を指示してダンベルを受け取ります。受け取ったダンベルは右手で持ちその腕は下に伸ばします。正面に座った場合、一呼吸（明確な間）においてハンドラーは犬に指示を出し、左側に座らせて基本姿勢をとります。

障害板の高さは下記の通りです。

体高 30cm 以下 最低 10cm

体高 40cm 以下 最低 20cm

体高 50cm 以下 最低 30cm

体高 50.1cm 以上 最低 40cm

体高測定は審査員が必要と判断した場合に実施します。

## 7. 前進及び伏せ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。10～15歩の間で犬に「マエヘ」を指示し、ハンドラーはその場で立ち止まります（指示と同時に腕を上げてかまいません）。犬が約30歩前進したらハンドラーは審査員の合図で「フセ」を指示します。審査員が合図をしたら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座させます。

## 8. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～6を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所へと行きます。

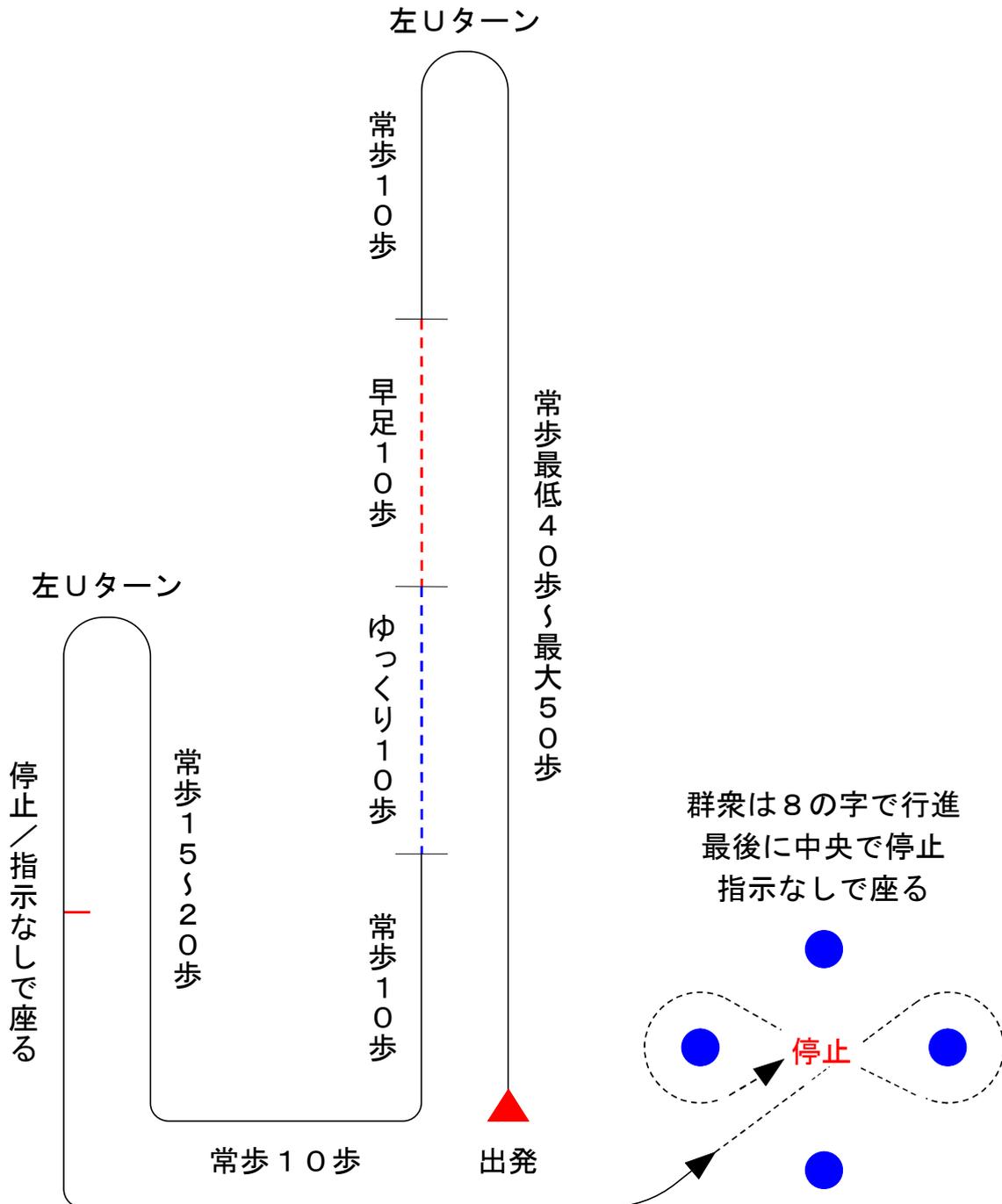
ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外します。審査員の合図で犬に「フセ」を指示してハンドラーは振り返ることなく、30歩進んで犬から見えないように指定された隠れ場所に入ります。

審査員が合図をしたら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座させます。

ハンドラーが伏せて待っている犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目5.「物品持来」を終える前に3m以上移動した場合は、得点は0点となります。

# 脚側行進要領図

ビギナー、OB1、OB2、OB3、全共通



# OPDES オビディエンス審査表

開催日： 年 月 日 会場：

		ビギナー		OB 1 度		OB 2 度		OB 3 度	
犬名								生年月日	
犬種				性別	牡・牝		外ウ or チップ		
指導手								会員番号	
所有者	住所・TEL								
	M	B	G	SG	V	OB チャンピオンポイント付与			
10	0-6.5	7-7.5	8-8.5	9-9.5	10	(OB1、2、3度) 有・無 V=10P SG=7P G=5P			
15	0-10	10.5-11.5	12-13	13.5-14	14.5-15				
20	0-13.5	14-15.5	16-17.5	18-19	19.5-20				
25	0-17	17.5-19.5	20-22	22.5-23.5	24-25				
50	0-34.5	35-39.5	40-44.5	45-47.5	48-50				
100	0-69.5	70-79.5	80-89.5	90-95.5	96-100				
課目	B	1	2	3	評価	得点	講評		
1 紐付きで横について歩く	15	---	---	---					
2 紐なしで横について歩く	---	15	25	20					
3 座って待つ	10	---	---	---					
4 常歩中の座れ	---	10	10	10					
5 伏せ-呼び寄せ	15	---	---	---					
6 常歩中の伏せ-呼び寄せ	---	15	15	10					
7 常歩中の立止-呼び寄せ	---	---	15	10					
8 物品持来	---	---	20	15					
9 障害物品持来	---	---	---	15					
10 前進及び伏せ	---	---	---	10					
11 伏せて待つ	10	10	15	10					
最小採点は0.5	50	50	100	100			審査員署名		
* 主催者は試験報告書+登録料を OPDES 事務局に 1 週間以内に提出すること * 審査表は担当審査員が最低 3 年間保管すること (主催者にも事務局にも提出しない)									